

## 令和4年度 東京都立中野工業高等学校（定時制課程）学校経営報告

### 1 目指す学校

#### スクール・ミッション

「社会の一員として社会に貢献し、責任を重んずる勤労精神の育成」を教育目標とし、ものづくり教育や学習指導において、基礎学力の定着を図ります。系統的なキャリア教育に基づく進路指導の充実から、個性の伸長と自立心を育み、生徒の興味・関心を高めることで創造力を伸長させます。

#### スクール・ポリシー

##### (1) グラデュエーション・ポリシー

- ① 社会的自立の基盤となる判断力・行動力
- ② 就職活動および社会生活で必要とされる基礎学力
- ③ 産業界において基盤となる、工業分野の知識・技術と課題解決能力
- ④ 意欲・関心を持って学びに向かう力
- ⑤ 互いに尊重し協同していく力
- ⑥ 社会生活に欠かせない理解力・表現力

##### (2) カリキュラム・ポリシー

- ① 就職・進学に結びつく学力の基礎・基本の定着を図る。
- ② 工業の専門性の充実を図り、資格取得や就職に耐えうる能力を養う。
- ③ キャリアガイダンスの充実を図り、コミュニケーション能力や社会性を養う。
- ④ 「体験」の実施により、自身のキャリアプランを考える能力と態度を醸成する。

##### (3) アドミッション・ポリシー

- ① 指導に素直に従い、社会生活で役立つ知識や技能を意欲的に取組んでいける。
- ② 誰とでも仲良くでき協力し合い、他人を思いやることができる。
- ③ 機械・食品工業に関する技術やものづくりが好きで、工業高校の実験・実習に積極的に取り組んでいける。真に自立した社会人の育成を目指す。

#### 目指す学校

本校は、真に自立した社会人の育成を目指す。

- (1) 挨拶を大事にし、職業人としての立ち居振る舞いができる生徒を育てる学校
- (2) 就職試験に合格できる学力の定着を図れる学校
- (3) 総合技術科の特色を生かし、教職員が学習指導、生活指導、進路指導、自立支援等に組織的に取り組む学校

### 2 具体的な学校像

- (1) 人権尊重を基盤とした教育活動を推進し、いじめや体罰のない学校
- (2) 産業界や関係機関との連携を図り、ものづくりを通して社会に貢献していく人材を育てる学校
- (3) 社会人として必要な基礎的な知識・技能と読み書き計算の能力を着実に身に付けさせる学校
- (4) 社会人として必要なコミュニケーション能力を確実に身に付けさせる学校
- (5) 社会生活を送ることができる気力や体力、働く力を身に付けさせる学校

- (6) 基本的な生活習慣を育成するとともに、規範意識をもった生徒を育てる学校
- (7) 自分自身を大切にするとともに、他者に対しても思いやることのできる生徒を育てる学校
- (8) 就職・進学に結びつく学力の基礎・基本を定着させる学校
- (9) 教職員が一丸となって生徒に向き合い、必要な態度と能力を身に付けさせる学校
- (10) 保護者や地域社会から信頼され、保護者及び地域社会と一体となった教育を推進できる学校
- (11) 教育活動の円滑な実施に向け、自律経営推進予算の手続きの遵守による計画的な予算執行を行う学校
- (12) 働き方改革を推進し、教職員が生き生きと職務を遂行し、教育活動を行う学校
- (13) 教職員のサービスの厳正を図り、サービス事故のない学校

### 3 中期的目標と方策

#### (1) 中期的目標

- ①校舎の全面改築を計画的に進めることで、地域企業及び地域住民や保護者から支持され、次代を担う工業高校を創設する。
- ②夜間定時制課程の工業高校として、学力向上と系統的なキャリア教育の4年間の全体計画を策定する。
- ③入学した全ての生徒の進路を実現するため、段階を踏んだ学習支援や関係機関との連携を図った自立支援等のプログラムを完成させる。
- ④定時制課程ならではの良さを中学生、保護者、地域にアピールし、入試倍率を向上させる。

#### (2) 方策

- ①新校舎の完成を目指し、施設・設備に関する計画的な検討と備品管理を行う。仮校舎への引っ越しを全教職員協力の基、成功させる。
- ②地域の関係団体及び企業等、産業界のニーズを把握するとともに、東京都や東京都中小企業振興公社、東京都商工会議所等の協力を得て、技術交流やインターンシップを計画し、社会や産業界との連携を強める学校を目指す。
- ③夜間定時制課程設置の意義を踏まえ、カリキュラムマネジメントを実施し、教育課程の編成、校内規定の見直し、募集対策、広報活動等について着実に計画・実施する。

### 4 今年度の取組目標と方策

#### (1) 学力と技術力の向上

- ①座学・実習においてICT機器の活用により確実に学力、技術力を高める。キャリア・パスポートなどを利用したポートフォリオを構築させる。
- ②資格取得や検定試験合格への挑戦、各種競技会・展示会への参加、課題研究発表会でのプレゼンテーションなど、具体的な目標達成のための指導を継続して実施し、生徒のやる気を高める。
- ③生徒が意欲的・主体的に学べるよう授業内容、指導方法、学習評価の在り方を工夫・改善する。特に、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を行う。

#### (2) 中途退学者対応と規範意識の向上

- ①自立支援事業継続校として、不登校、中途退学者、再就職者への対応を組織的に進める。
- ②生徒の実態に応じた校内規定の見直しを進め、学校に対する生徒の帰属意識と真に自立した社会人になるための意欲を高める。

#### (3) キャリア教育の充実

- ①4年間の系統的なキャリア教育の全体計画を教職員に周知し、分掌横断的な連携を図った取組を行う。
- ②東京都や産業界主催のイベント、中小企業振興公社や東京都商工会議所との連携による産業技術交流、インターンシップ等を実施する。

- ③工業系大学との協定等、大学進学への進路開拓を行う。
- (4) 生徒のチャレンジ支援
  - ①ボランティア活動等を通して、地域社会に貢献することにより、達成感やボランティアマインドを育てる。
  - ②部活動の活性化、地域行事への参加、各種資格取得への取組、研究発表大会への積極的なチャレンジ・参加等を奨励し、生徒の達成感と自信、新たなチャレンジ精神を醸成する。
- (5) 新学習指導要領導入に向けた学力観の転換と教員の授業力向上
  - ①ルーブリックの策定により、教科間の情報・意見交換を活発にする。
  - ②全ての教科・科目にアクティブ・ラーニングを導入するとともに、教科・類型横断的な授業を開発し、カリキュラムマネジメントを学校全体で進める。
  - ③同じ教科及び異なる教科各1回の相互授業観察を実施し、授業力の向上を図る。
  - ④生徒の学習状況を適切に評価し、評価を指導の改善に活かし、より効果的な指導が行えるよう指導の在り方について工夫改善を図る。
- (6) 成人年齢引き下げによる事故防止と主権者教育の充実
  - ①成人年齢の引き下げによる生徒が事故に巻き込まれないよう、消費者教育等の充実を図る。
  - ②生徒会選挙や中野区の選挙管理委員会との連携による模擬選挙等の体験的な取組を実施し、社会の一員としての自覚や有権者としての役割等について身に付けるための活動を展開する。
- (7) 教職員の働き方改革とサービスの厳正
  - ①年間を通じた職務のスケジュール化を図り、適切な進行管理の下、効率的に遂行する体制を構築する。
  - ②「Scrap and Build」に努め、業務の効率化と諸会議のスリム化を進める。
  - ③サービス事故防止研修を計画的に実施するとともに、社会や他校での事故を教訓にして、サービス事故防止を徹底する。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
教務部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程の適正な実施</li> <li>2. 諸帳簿の適正な管理</li> <li>3. 入選の適切な対応</li> <li>4. 募集対策の充実</li> <li>5. 広報活動の充実</li> <li>6. その他</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各教科が年間授業計画通り、今年度も支障なく教育活動が行われた。</li> <li>2. 教務部内でコミュニケーションを取り、複数で業務を事前に確認し、業務の遅滞もなく実施した。</li> <li>3. 入選業務に向けた事前準備と入学者選抜業務を適正に進行した。</li> <li>4. 10月中旬に近隣区(中野・杉並・練馬・新宿)75校に学校案内・学校説明会・学校パンフレット等送付した。今年度は学校説明会を2回、さんだる相談会に4会場に参加した。</li> <li>5. 今年度はHPを76回更新し、本校生徒の学校生活、学校案内等を定期的に更新した。</li> <li>6. 統合型校務支援システムについての研修会を実施し教職員へ運用を周知した。</li> </ol>
生徒部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 規範意識の向上を目指した生活指導の充実</li> <li>2. 中途退学者防止に向けた特別指導規定の見直し</li> <li>3. 地域社会との連携による年間をととした社会貢献活動の充実</li> <li>4. 関係諸機関と連携した健康教育の実施</li> <li>5. 給食指導の充実</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担任、各教科の先生方の協力により、今年度も特別指導件数は0だった。</li> <li>2. 粘り強く継続的に指導できるように指導内容を検討し校内規定の見直しを実施した。</li> <li>3. 地域外部機関と連携し、年4回の避難訓練や地域清掃活動を実施することができ、地域との連携を深めることができた。</li> <li>4. 外部講師を招いて、栄養、睡眠等の健康教育に関する講演会を2回実施することができた。</li> <li>5. 新型コロナ感染症対策として、アルコールでの手指消毒と黙食の指導を徹底した。</li> </ol>
進路部	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 4年間をととしたキャリア教育の充実</li> <li>2. インターンシップの充実</li> <li>3. 教職員の企業開拓</li> <li>4. 就職試験に向けた取組</li> <li>5. 定着率・離職率の調査の実施</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 年2回の進路講話を各学年の要望に応じて外部講師に対面で実施でき、進路選択の意識が高まった。</li> <li>2. 3学年4名が3日間のインターンシップに参加した結果、勤労意識が深まり、報告会においてその成果をまとめ後輩に発表できた。</li> <li>3. 特に手帳保持生徒の就職先についてハローワークと連携した結果、新たな支援組織やサポート体制があることが分かった。</li> <li>4. 企業研究、会社見学、履歴書作成、面接練習の各段階において生徒指導をきめ細かく実施した結果、1回目の内定率が66%を得た</li> <li>5. 昨年度就職した生徒からの離職した報告は受けていない。今後も生徒一人一人の性格と適性を見極め指導することが課題である。</li> </ol>
1学年	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遅刻・欠席をさせないための取り組み</li> <li>2. 保護者との連携</li> <li>3. 就労活動の検討</li> <li>4. 行事の活性化</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学年団で連携し、授業開始に間に合う時間に登校するよう継続的に指導を行った。</li> <li>2. 必要に応じて保護者に連絡し、生徒の学校生活について報告・相談することで、生徒の支援につなげることができた。</li> <li>3. クラスのうち2名がアルバイトを行っている。アルバイトと学業を両立できるよう、次年度以降も継続的に指導を行っていく。</li> <li>4. 文化祭をはじめとして、様々な行事に学年全体で積極的に参加することができた。</li> </ol>
2学年	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遅刻・欠席をさせないための取り組み</li> <li>2. 保護者との連携</li> <li>3. 進路に向けた意識付け</li> <li>4. 行事の活性化</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒に対して遅刻・欠席についての指導を継続的にを行い、意識が変わりつつある。</li> <li>2. 上記の連携も含めて、今年度は全員の保護者に1回以上連絡を行い保護者と連携して生徒指導を行った。</li> <li>3. 計画的に進路に向けた意識付けを行い、進路活動に向けて意識づけをすることができた。</li> <li>4. 各行事に前年より出席することができた。また、校外学習やHRの時間においても生徒が主体的に活動できるようになった。</li> </ol>
3学年	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遅刻・欠席をさせないための取り組み</li> <li>2. 保護者との連携</li> <li>3. 就労活動の検討</li> <li>4. 行事の活性化</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒に対して遅刻・欠席についての指導を継続的にを行い、前年度から一割程度改善した。</li> <li>2. 全員の保護者に1回以上連絡を行い、また保護者会も2回実施し、保護者と連携して生徒指導を行った。</li> <li>3. 進路部と連携して、進路行事以外にもLHR等の時間を使い、4回程度進路活動に向けた意識付けを行った。</li> <li>4. 文化祭では、全学年の生徒と一緒に準備や当日の体験活動を主体的に活動することができた。</li> </ol>
4学年	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遅刻・欠席をさせないための取り組み</li> <li>2. 保護者との連携</li> <li>3. 就進路活動</li> <li>4. 行事の活性化</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生徒の心身についてSCやYSW、教職員全体と連携し、組織的に取り組めた結果、5名中、4年間皆勤2名、1年間皆勤2名となった。</li> <li>2. 4年間電話連絡、保護者面談を実施した。修学旅行等の学年行事にも協力していただくことができ、無事に卒業式を迎えることができた。</li> <li>3. 進路指導部やハローワーク等と連携し、生徒全員希望した進路に進むことができた。</li> <li>4. ホームルーム活動を活用し修学旅行や課題研究発表会等、生徒全員で取り組むことができた。</li> </ol>
各教科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資格取得と検定受検の促進</li> <li>2. 授業や実習における規範意識の向上</li> <li>3. 授業力向上に関する取組み</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎製図検定に受験者3名が全員合格することができた。今後も資格取得に向けた取り組みを継続していく。</li> <li>2. 授業開始・終了時に挨拶を励行させ、授業中の机上に必要なものをいらないものを出させない指導を徹底させた。今後も継続して指導を実施する。</li> <li>3. ICT機器などを使った授業を80%の教職員が実施した。今後も利用を促進しわかりやすい授業を実施する。</li> </ol>

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
経営企画室	1. 資格取得と検定受験の促進 2. 授業や実習における規範意識の向上 3. 授業力向上に関する取組み	1. 基礎製図検定に受験者3名が全員合格することができた。今後も資格取得に向けた取り組みを継続していく。 2. 授業開始・終了時に挨拶を励行させ、授業中の机上に必要なものをいらないものをいらない指導を徹底させた。今後も継続して指導を実施する。 3. ICT機器などを使った授業を80%の教職員が実施した。今後も利用を促進しわかりやすい授業を実施する。
教育課程委員会	1. 教育課程の編成 2. 弾力的な教育課程の推進	1. 令和5年度の教育課程の確認。 令和5年度から教科「世界史」が無くなり、「家庭科」が実施される。 ” 2. 観点別学習評価の適正な実施に向けて 指導と評価の一体化に向けた校内研修及び教科会の実施 ”
図書運営委員会	1. 図書館の運営に関する取組み 2. 生徒の図書館利用の向上の検討	1. 授業に関連する図書を数多く選書することで、学習センター・読書センターとしての図書館の役割を充実させることができた。 2. 授業で利用する場面を積極的に作ることで、生徒が図書に親しみを持てるように働きかけることができた。
給食運営委員会	1. 担任や栄養士と連携した生徒の喫食率向上の検討 2. 食物アレルギーに関する対策	1. 生徒の実態を踏まえ季節や行事を感じ多彩な食品と色彩を味わえる献立を立て楽しく正しい食事ができる給食を実施した。 2. 健康調査・健康診断結果を共有して食物アレルギーのある生徒にはアレルギー管理指導票の提出を保護者をお願いしている。毎月給食使用原料確認表で保護者と原材料の確認ができる体制を作った。
学校保健委員会	1. 生徒の健康づくりの推進 2. 学校医等と連携した生徒の健康の促進	1. 一斉健康診断結果・健康課題・生徒の状況を把握して学校保健計画を立案して実施した。 2. 学校保健委員会で健康診断結果・健康課題について情報共有を行い課題解決のため検討した。
ITリーダー会議	1. 一人1台端末に向けた準備 2. HPに関する取組み	1. デジタルサポーターと連携し、Teams 校内研修を学期ごとに計3回実施した。 2. 今年度は76件のニュース記事投稿し、月平均のアクセス数は3000件となった。
業者選定委員会	1. 業者選定に関する検討	1. 9,11月に実施し業者を適正に選定した。今後も適宜委員会を開催し公正な業者選定を実施する。
SC委員会・いじめ対策委員会	1. スクールカウンセリングに関する検討 2. いじめに関する検討 3. YSWIに関する検討	1. 月1回のSC・いじめ対策委員会を実施して生徒情報を共有して生徒理解につなげた。全員面談を毎学期に実施した。 2. 学期に1回いじめアンケートを実施して、SC面談等につなげている。結果については全職員で情報共有して方策を検討した。 3. YSWIとSC、生徒部、進路部、各学年担任と連携して就労支援を適切に実施した。
学校サポーター	1. 緊急時いじめ対応に関する検討 2. 外部委員と連携方法の検討 3. SC・いじめ対策委員会との連携	1. 週1回、SCには日常の授業なども見学していただきながら生徒の情報を共有して生徒理解につなげた。 2. 今年度も緊急対応をするような案件は無かった。今後も外部委員との連携を密にしていく。 3. 自立支援担当・教育相談担当・特別支援コーディネーターが連携して情報共有を行い支援の方法などを検討した。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
インターンシップ委員会	1. 未就労生徒の指導に関する検討 2. 実施内容の検討	1. 未就労であっても、インターンシップは貴重な体験であることを伝え、担任と連携して生徒や保護者に丁寧に説明を行った結果、4名の生徒が参加することとなった。 2. 参加する生徒の進路先の要望を確認し、コーディネーターと調整して、実施内容を検討した結果、2名ずつ1社で体験させることが有効であることが分かり、実施できた。
教科書選定委員会	1. 教科書の調査研究 2. 教科書の選定	1. 新規発行された教科書全て調査研究を完了した。今後も本校生徒に適した教科書の採択に向けた調査研究を実施する。 2. 年3回の委員会を実施し、令和5年度使用教科書届けを提出し教育委員会に承認された。今後も継続して調査研究結果及び生徒の実態を踏まえ選定業務を適切に実施する。
防災教育委員会	1. 学校安全計画に関する検討 2. 地域と連携した防災教育の検討	1. 近隣の消防署と災害時の避難経路の確認、煙体験を体験した。 2. 避難訓練を通して生徒の防災に対する意識を高め主体的に防災活動に取り組む姿勢を養うことができた。
補助金審査委員会	1. 補助金に関する検討 2. 保護者対応	1. 9, 12, 1, 3月に委員会を実施し、補助金申請者を了承した。今後も対象者に申請を促す指導を実施する。 2. 保護者への周知を7月に実施し、その後は、審査会后に担任から保護者への周知を促した。今後も保護者と連携して申請を促す指導を実施する。
学力向上開拓推進委員会	1. 教科指導に関する検討	1. 学期1回、先生方が自分の教科以外の授業を参観することができた。
安全衛生委員会	1. 職場における安全衛生に関する検討 2. 職員の健康維持	1. 毎月1回の委員会を開催し、産業医を中心に労働環境の改善ができた。 2. 職員の健康診断や新型コロナウイルス接種などを周知し職場環境の改善ができた。
改築委員会	1. 仮設校舎への移転及び旧校舎の解体 2. 施設・設備の検討	1. 学校運営に支障がないように移転業務を計画的に実施することができた。 2. 移転及び改築に向けて準備をしている。今後も多くの教職員に周知させたい。